

小澤 寛樹 ⑬

米映画「普通の人々」は二枚目俳優ロバート・レッドフォードが初めて監督し、アカデミー賞に輝いた作品です。

主人公は、ボート事故で亡くなった兄に対する罪の意識から自殺を図り、未遂に終わった青年コンラッド・ジャレット(ティモシー・ハットン)。彼が精神科病院から退院したところから映画は始まります。父親は弁護士のカルビン(ドナルド・サザーランド)、母親はベス(メアリー・タイラー・ムーア)。コンラッドを何とか立ち直らせようとはしますが、どこかの外れ。ベスは自分の思うように息子を管理したい気持ちが強く見られます。

家族機能と精神科医の役割描いた

「普通の人々」(1980)

父親の勧めで、コンラッドは精神科医のバーガー博士(ジャド・ハーシュ)の診察を受けます。治療を重ねる中でコンラッドは両親との関係を見直していきま

「普通の人々」のDVDジャケット(パラマウントジャパンから発売中)



家族機能に関する推薦映画

- ▽「アイス・ストーム」(1997年・米国)
- ▽「アメリカン・ビューティー」(99年・米国)

す。一方、バーガー博士は、家族全員に会いに来るよう

に勧めますが、母親は「私を変えようなんて思わないで」と拒否します。

病院で親しかった友人の自殺で、コンラッドの心に

兄を失ったことが再びよみがえります。そして自分の苦悩が、兄が死んだのに自分

が生きてしまっていることにあると気付きます。その

なコンラッドを、バーガー博士は「友人」として支え、癒やします。

映画は母親が家を出ていき、父と子が庭でたずむ

シーンで終わりますが、これから新たな家族の関係が芽生えることも予感させま

す。この映画は思春期の自殺、家族機能の問題を取り

上げている人が多くではないでしょうか。しかし、精神科医の仕事はまず患者の話

危機の時こそ本質見える

です。その人の命、名誉、財産に危機が及ぶようなときには、積極的な行動も辞しません。映画のバーガー博士も患者から無理に話を聞き出そうとはしませんが、コンラッドがパニックに陥った時には毅然と「きせんとした行動をとります。精神科医はそうして患者を支援しますが、患者が治るといふより、患者自身が変わるのです。家族や他人はそうたやすく変わりません。

さて、この家族は兄の事故が起きるまで経済的にも、情緒的にも一見問題のない普通の人々でした。しかし、心理学的には家族機能は危機の時に力を発揮するといわれます。人類が家族というシステムを作り上げたのは、飢餓、けが、死、

子どもの養育、親のケアなど生活していく上でのリスクに対応するためでした。現代日本の若い家族の多くは幸せの中で出会い、愛をほくくみ、ゴールインして、結婚生活が始まります。多くの家族は危機を知らな

い形で形成されていますが、何かが起こった時にこそ本当の家族の在り方が問われるのです。冒頭とエンディングにヨハン・パッヘルベルの名曲「カノン」が流れる静かな映画です。重なり繰り返される美しい旋律が、負の循環からの再生を暗示しているかのようです。

(長崎大学院医歯薬学総合研究科精神神経学教授) 長崎大精神神経科学教室のホームページのアドレスは、<http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/psychtry/>